

介護現場における

リハ職のための

リスク マネジメント

株式会社リライト
理学療法士
なが き とも のり
永木 和載

第3回

内部障害を持つ高齢者への
リハビリの実施方法と
ポイント

～リハビリ時の生体反応とは～



安全にリハビリを行い、その効果を最大限に発揮させるためには、正しい知識を正確に理解して持つことが重要です。本稿では、内部障害を持つ高齢者にリハビリを行う際の視点とポイントを解説します。

安全で効果的なリハビリを提供する際の2つの視点とは？

呼吸器や循環器の機能が低下した方に対し、安全かつ効果的な運動プログラムを提供するためには、次の2つの視点を併せ持つことが重要です。

- 機能が低下した臓器を限局してとらえる視点
- からだの状態を包括的にとらえる視点

例えば、心疾患^{りかん}に罹患した方の身体機能に対する情報収集について考えてみましょう。まずは、最も機能が低下していると考えられる、心機能の

状態（心肥大の有無、不整脈の状態など）に関して情報収集します。次に、心臓以外の臓器（呼吸器や腎臓、骨格筋など）の状態について情報収集します。からだはさまざまな臓器が互いに影響しあって機能しており、心機能が低下すると、その他の臓器の機能も二次的に低下する可能性が高いと考えられるためです。合併症の有無や過去の病歴などから、心臓以外の臓器に関して情報収集し、先の心臓に関する情報と統合し、からだの状態を包括的にとらえます。

呼吸疾患に罹患した方の身体機能評価について

先述した2つの視点でとらえる姿勢が重要なのは、身体機能評価においても同様です。呼吸器疾患に罹患した方に行う身体機能評価の1つに、パルスオキシメーターを用いた、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）測定があります。SpO₂は動脈血中にあるヘモグロビンの何%が酸素を運んでいるかを示します。

SpO₂ 96%以上:正常値
95%未満:呼吸不全の疑い
90%未満:在宅酸素療法の適用を考慮